

11月も半ばとなり、あちこちでクリスマスの飾りつけを見掛けます。クリスマスと言えばケーキですが、12月はケーキの売上げが1年で最も多い月です。他にも夏のアイスクリームなど、毎年同じころ同じように売上げが増減する物ってありますよね。

このケーキの売上げのように、統計調査で得られるデータには、クリスマスなど季節の行事・習慣によるもの▽気候・天候によるもの▽連休などカレンダーの影響によるもの▽企業の決算・夏冬のボーナスなどの制度によるもの—といった各種要因で、毎年同じように繰り返される変動があります。これを「季節変動」と呼びます。

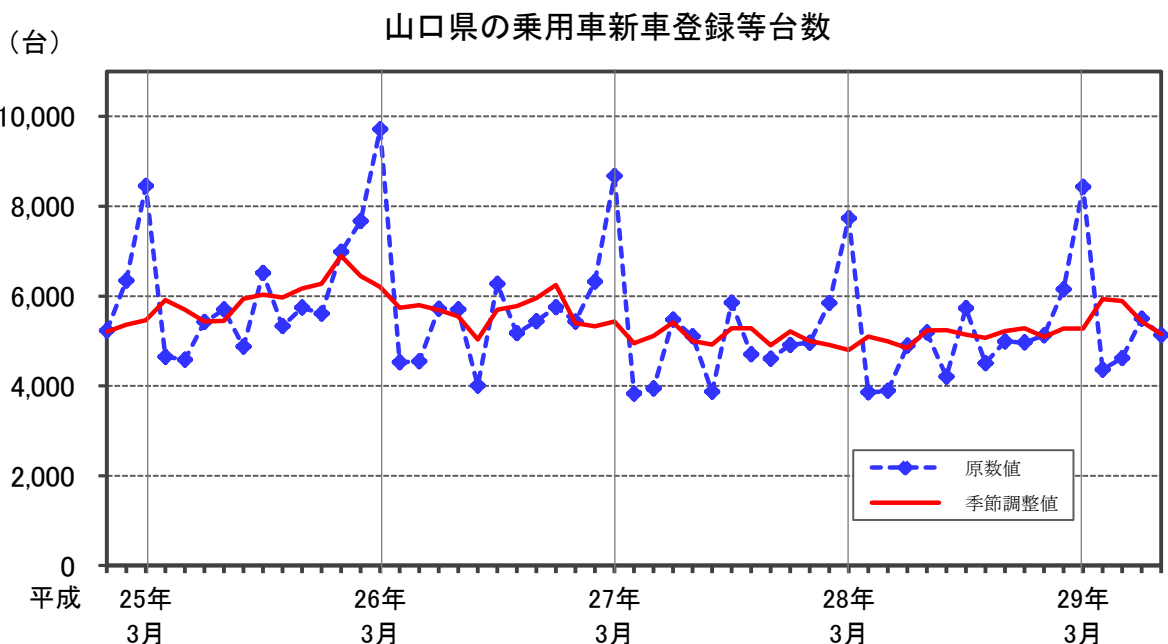
統計結果を分析する際、前年同月と比較する場合はこうした「季節変動」は気になりませんが、毎月や四半期毎の結果を比べると、「季節変動」による変化分を含んだままではその正確な増減の状況を捉えることができません。困ってしまいますね。

そこで行われているのが「季節調整」です。統計結果そのままの「原数値」から「季節変動」を除去して比較ができるようにする統計的な手法のことで、その結果得られる値を「季節調整値」と言います。

実際の数値をグラフで見てください。青色の点線が山口県の毎月の乗用車新車登録等台数の「原数値」で、これだけを見ると「毎年3月は新車の売上げが上がって景気がよさそう。でも、いつも4月に急に景気が悪くなるの？」と書いてしまいますが、どこか変ですね。

そこで「季節調整」の出番です。赤色の実線「季節調整値」を見ると、3月の極端な変動は影をひそめ、純粋な台数の増減を景気動向の分析に活用することができます。

このように、統計結果数値の公表値には「原数値」と「季節調整値」とがあります。後者のときは、どんな要因があるのか推理してみませんか



出典：原数値 … 中国運輸局山口運輸支局資料より
 季節調整値 … 山口県統計分析課資料より